

韓日間の平和を願う
韓国基督教長老會大田老會・日本基督教団京都教区

共同声明

韓国基督教長老會大田老會と日本基督教団京都教区は、今日、悪化している韓日関係を憂慮し、両国間の平和を願う心をもって共同の立場を明らかにする。両老會・教区はすでに、過ぐる10月6日<韓日間の平和のための共同祈禱文>を通して互いの立場を共有した。今日、大田老會と京都教区の交流20周年の意味をあらためて刻みつけるこの場において、わたしたちは韓日間の平和へと向かう共同の意志を重ねて確認し、これを教会と会衆の前に明らかにする。

キリストは人々の中であって、隔ての壁を取り壊し、平和を実現する手本を示してくださり、この地の上に平和を実現する貴い使命をわたしたちに委任してくださった。

そのみ心に従い大田老會と京都教区は1998年宣教協力関係を結んで以来、韓日両国の間に平和を実現するために献身してきた。不幸な過去の歴史が横たわっている現実を直視し、互いを理解するために努力してきたのであり、和解と平和をなすために教会間の協力と方策を絶えず模索してきた。

その過程を通してわたしたちは引き裂かれていた人々の間であって和解と平和を実現する希望(エフェソ書2:14-16)を期待することができた。またわたしたちは相共に、キリストにあって愛の交わりを分かちことを喜べるようになった。

しかし、残念なことに今、韓日両国政府次元において、葛藤が深まり、これに続いて両国民の感情もまた悪化している。

表面上は貿易紛争のようにみえるが、事実その葛藤の根っこには過去の不幸な歴史に対する両国間の理解の違いがある。日本軍「慰安婦」についての両国政府間合意の事実上の破棄、強制徴用労働者に対する賠償判決の問題が今、韓日政府間の葛藤の要因となっている現実をわたしたちは厳しく直視している。現在の事態は依然として両国の間にある不幸な過去の歴史が、完全に清算されていないところから来るものである。

わたしたちは両国政府が、その厳しい現実を率直に認め、その基盤の上に、相互間の平和と繁栄をなす道を模索することを願う。韓日両国は不幸な過去の歴史にもかかわらず、共同の歴史認識を追求し、緊密な協力関係にあって平和と繁栄をなしてきた道筋を共有している。1993年、河野洋平談話に始まり、1998年、金大中・小渕恵三の共同宣言に至るまでの道筋は、韓日両国間共同の歴史認識の進展を見せ、それは韓日両国間協力と共同の未来を指向することにおいて重要な基盤となってきた。わたしたちは、その共同の歴史認識をいっそう発展させることで両国間の真の和解と平和をなせるようにと願う。

韓国基督教長老會大田老會と日本基督教団京都教区は、今まで20年を越えて共に追求してきた共同の歴史認識のために努力してきた意義を高く評価し、その認識を両国の社会と教会の中に拡散させることにいっそうの努力を傾けよう。それは国家主義やまた民族主義に便乗することとは異なり、福音の普遍的精神を具現する道だとわたしたちは信じる。

イエス・キリストの福音に従い、葛藤するまさにこの地の上に平和を実現しようとするわたしたちに神さまは勇気を奮い立たせてくださり、知恵を増し加えてくださることを信じる。両老會・教区はその信仰をもって身を挺して働き、韓日間の和解と平和を実現するために寄与するものである。

2019年11月5日

韓国基督教長老會大田老會・日本基督教団京都教区